

## 【研究1】

# 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する調査研究

－深い学びにつながる授業づくり－

## 抄 録

「深い学び」がよく分からない。そんな現場の声を受け、この調査研究は始まった。小学校、中学校での新学習指導要領の完全実施に伴い、「深い学び」につながる授業づくりについて研究を進めてきた。

1年次は、授業づくりの「問い」に着目して授業を見てきた。その中で、子供に、教科の「見方・考え方」を考える視点として明示すること、主体的な学びの場を学習過程に設定することなど、「問い」だけにとらわれず、単元を通して教師の手立てを考えることの重要性が分かってきた。そして、「主体的・対話的で深い学び」は学びの手段であり、「資質・能力」を育むことが授業のゴールであることを認識することができた。そこで教科の「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」を位置付けた、「資質・能力」を育む授業づくりの基本形を構築した。

2年次、「子供の思考を促す働きかけ」を教師の「問いかけ」とし、基本形を基に、「子供の思考の流れ」を意識した授業づくりに取り組んだ。教師が適宜・適切な「問いかけ」をすることで子供一人一人が学びを進めていこうと見え、研究を深めていった。

授業づくりの視点として、「単元構想での問いかけ」「授業での問いかけ」「リフレクションを生かす問いかけ」を挙げ、その時々「子供の思考の流れ」を意識して、「問いかけ」を考えた。授業では、教師の様々な「問いかけ」が互いに作用することで、子供の学びは進んでいった。しかし、それが「深い学び」に結び付いたといえるのか。そこで、独立行政法人教職員支援機構（NITS）が提示している「深い学び」の7つの姿を視点に、子供の姿を見取っていった。そして、教師が子供の実態や学びに合った「問いかけ」を想定し、「主体的な学び」「対話的な学び」を意識した学習過程となるようにした。研究協力校での観察から、「思考して問い続ける」「知識・技能を習得する、活用する、概念化する」「自分の思いや考えと結び付ける」「自分の考えを形成する」「新たなものを創り上げる」等、「深い学び」の姿が見られた。そして、それを導き出した教師の「問いかけ」の有効性と、子供の個別最適な学びを目指して教材研究に取り組み、改善に取り組んでいく教師の姿を見付けることができた。

## <キーワード>

問いかけ            単元構想            リフレクション            授業づくり  
子供の思考の流れ    深い学びの具体の姿    個別最適な学び